



目次

● ー診療連携ー 「小児科のご紹介」.....	2
● ートピックー 認定看護師制度.....	4
● ーお知らせー ホームページのご紹介.....	6
● ー新入職員紹介ー.....	7

診療連携

小 児 科

「小児科のご紹介」

小児科科長 益田君教

はじめに

この紙面をおかりして、当院小児科のご紹介を申し上げます。

当院小児科では開院以来、会員の先生方からご紹介頂いた患児を中心に入院治療をしております。一般外来はなく、外来は主に検査が主体です。

病床数は27床で、疾患は気道や消化器系の感染症が主です。したがって、感染症が少ない夏季は患者数が減少し、感染症が増加する冬季になると患者数が急増しご紹介いただいた患児のベッドを確保することが最重要課題になっています。

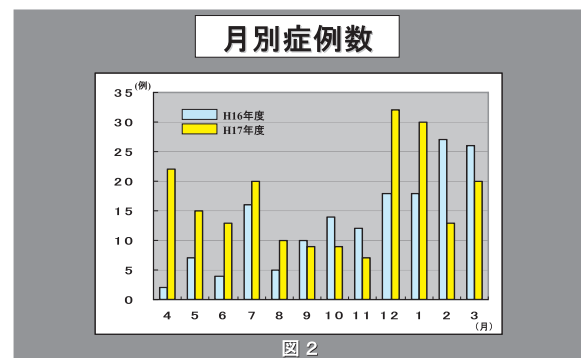
当院小児科は開院以来、小児科医4名体制でしたが、平成16年4月に鹿児島県から小児救急拠点病院に指定されました。小児救急拠点病院の義務として、24時間体制で小児科医が常勤し救急車からの救急搬送の依頼と一次病院からの小児患者の依頼を受けなければなりません。そこで鹿児島大学小児科のご支援をいただきまして、平成16年4月から小児科医が6名と増員となりました。小児救急拠点病院指定以前は小児科も他科と同様時間外はオンコール体制でしたが、現在は小児科単独で当直医を置きそれに加えて小児科のオンコールも1名置いて2名体制になっています。

小児救急拠点病院指定後の平成16年度と平成17年度の救急車依頼の統計をご報告いたします。

救急車搬送依頼

平成16年4月から平成18年3月までの2年間で救急隊から依頼され受診した患児は総数359例でした。平成16年度が159例、平成17年度が200例と増加していました(図1)。

当院小児科では開院以来主に紹介患児を対象としていましたので、これまでは救急車搬送依頼はほとんどありませんでした。このため、小児拠点病院発足当時は救急隊にもあまり知られていなかったようで、平成16年6月に県に要望し、救急隊との会合を開いていただきました(実際は発足前に何度か同様の会合があったのですが)。その効果により同年7月からは救急車からの搬送が増加いたしました(図2)。月別の症例数をみますと、8月から11月が少なく、感染症が流行する12月以降に急増します。これは主に熱性けいれ

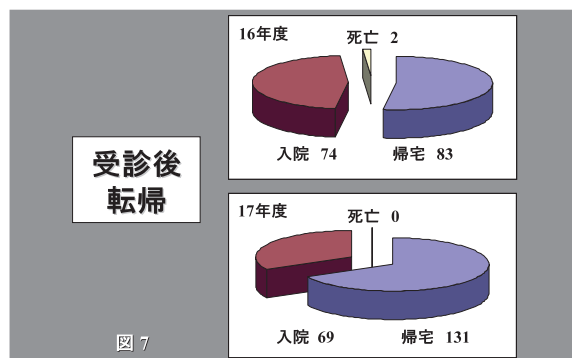
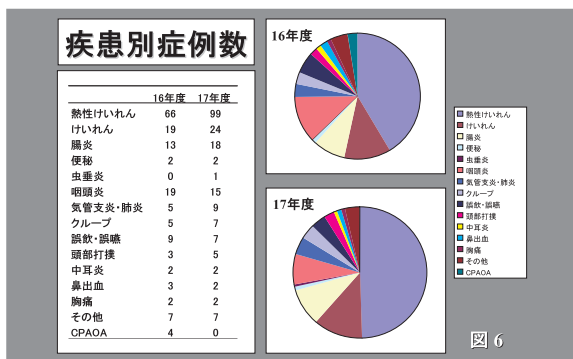
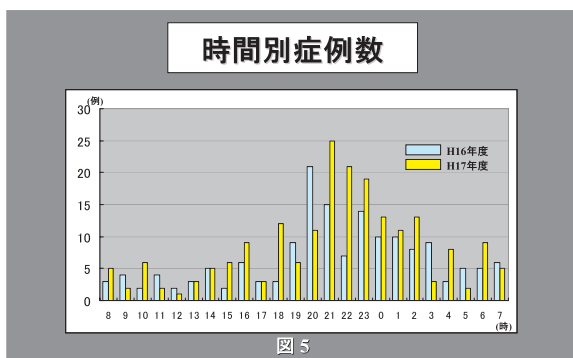
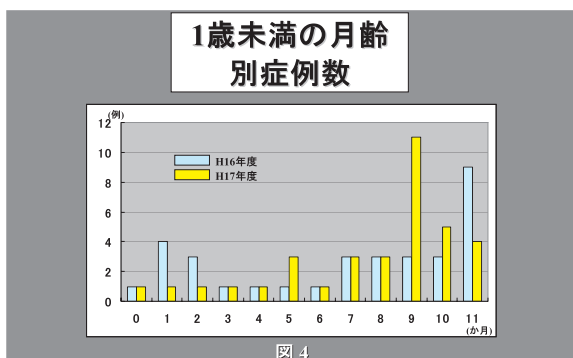
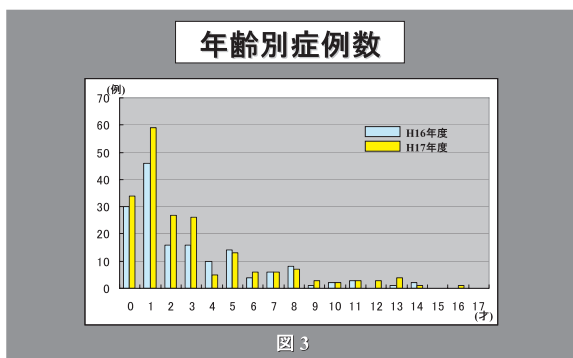


んなどのけいれん性の疾患が増加したためです。

年齢別のグラフを図3、4に示します。5才以下の乳幼児が8割以上を占めました。その中でも、1才が最も多く次いで0才が多くを占めました(図3)。0才台の内訳では、生後7か月以降の乳児が多い傾向にありました(図4)。

時間別の症例数を図5に示します。8時から17時の通常時間帯の症例数は多くはなく、時間外となる18時以降に増加しました。

疾患別の症例数を図6に示します。診断は受診時の救急外来での診断名です。平成16年度、17年度ともに熱性けいれんが最も多く、熱性けいれんも含めたけいれん性疾患が半数以上を占めました。けいれん性疾患は予想以上に多い印象がありました。その次には、嘔吐・腹痛を主訴にした消化器系疾患と発熱・咳を主訴とした気道系疾患がほぼ同様の割合でした。薬やたばこの誤飲を含めた誤飲誤嚥事故が年間10例弱ありました。鼻出血や耳の痛みを主訴に救急車要請がされる例も年間数例認めています。受診時心肺停止状態の症例が平成16年度に4例ありました。



した。1例は1か月の男児で心肺停止の原因は不明でしたが、蘇生後低酸素脳症が残り在宅人工呼吸にて現在も生存しています。平成17年度は心肺停止状態での救急車搬送はありませんでした。その他の救急車搬送後の転帰としては、半数以上が経過観察後入院にはならず帰宅となりました。

現在の小児救急拠点病院としての問題点としては、冬季になると患者数が急増するため病床数が足りなくなることです。これに対してはベッドの回転率を少しでもよくすることにより対応しています。また、当院には脳外科、整形外科、小児外科がありませんので外傷の患児が受け入れられない点にあると思っていますが、この点につきましては病院の性質上改善は難しいと考えています。

一口に小児救急といっても、脳炎脳症などの神経系疾患、心筋炎・不整脈などの循環器系疾患、高度脱水・水中毒・病原性大腸菌などの消化器系疾患、溺水・喘息や肺炎などの呼吸器系疾患、CPAOAなどと多岐にわたります。このような小児内科的疾患のプライマリーケアを十分にできるように今後も努力していきたいと思っています。

これからも小児救急拠点病院の役割を果たしつつ、これまで同様鹿児島市の小児二次救急医療を中心に行っていく所存です。今後ともよろしく願っています。

図7に救急車搬送後の転帰を示します。心肺停止状態で搬送された4例のうち2例は救急外来で死亡が確認されました。1例は脳性マヒの患児で誤嚥性の窒息、1例は5歳の女児で死亡後インフルエンザ検査を行ったところ陽性でした。インフルエンザによる脳炎もしくは心筋炎の可能性が考えられましたが解剖の承諾が得られず確定診断までには至りませんでした。あと2例は蘇生後ICUに収容しましたが、うち1例の脳性マヒ患児の誤嚥による窒息の症例は翌日死亡いたしました。



トピック

認定看護師制度

<認定看護師制度とは>

日本看護協会が定める必要な教育課程を修了し、ある特定の分野において、熟練した看護技術と知識を有することが認められ、実践・指導・相談の役割を果たす看護師を認定する制度のことです。

「がん化学療法看護認定看護師」



総合外来
三浦 ひとみ

平成18年度日本看護協会認定看護師審査を受験いたしました。私の専攻は「がん化学療法看護」で、現在全国に148人の認定看護師が活動しています。がん医療は、患者数の増加や、治療の多様化、

世論の高まりもあり、チーム医療の重要性が積極的に議論されている領域です。私もがん医療のチームの一員として、安全な抗癌剤投与、有害事象のマネジメント、患者の意思決定支援を心がけております。また、認定看護師となり、患者への看護ケア実践を中心にしながら、少しずつ看護師への教育や、他職種、他施設との連携など活動の範囲を広げていきたいと考えております。

当院では今年度より、化学療法委員会が発足いたしました。化学療法の件数の増加、薬剤師による注射の調製をきっかけにプロトコルの整理・管理を行い、「当院での安全で標準的な化学療法を確立しよう」という目的があります。それに追従して、薬剤部、看護部合同での化学療法分科会を立ち上げ、実際にどのような化学療法が行われているか、現場での問題点は何か、検討する機会を作りました。まだ、活動は始まったばかりですが、院内での情報交換を行い、必要に応じて勉強会を開催することで、看護師の化学療法に関する知識が増し、看護に活かせるよう活動していきたいと思っております。

私は現在、総合外来に所属し、外来化学療法を受ける患者様を中心に看護しております。リクライニングチェア2脚、ベッド2床の小さな処置室ですが、毎月延べ50件の化学療法が行われています。化学療法は、来院する曜日が決まっておりますので、顔見知りになった患者様同士がお互いに症状を話し合ったり、検査の結果に一喜一憂したり、とアットホームな雰囲気が特徴的です。それぞれ、受け持ち看護師を決めて看護にあたり、定期的に患者カンファレンスを行い看護ケアに活かしております。しかし、外来での化学療法も始まったばかりで、環境の整備、サービスの充実などハード・ソフト両面での工夫が必要な状況です。他施設の皆様がどのような点を工夫されているのかお互いに情報交換できれば幸いです。もし、何かよいご意見等がございましたら、医師会病院総合外来までご連絡ください。お互いに情報交換しあって、お互いの環境を高めあえるような医療連携をめざしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



がん化学療法処置室

「感染管理認定看護師」



医療安全管理室
濱田 亜弥

昨年、日本看護協会神戸研修センターにおいて「感染管理教育課程」の研修を受講、認定審査に合格し、今夏より「感染管理認定看護師（ICN）」としての一歩をスタートいたしました。6カ月の研修

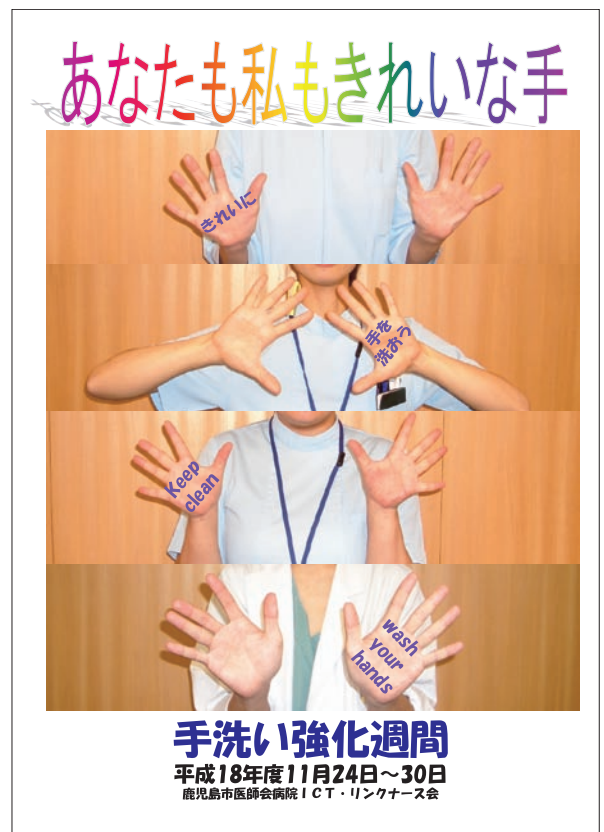
では、これまでリンクナースとして現場で得た経験や知識の整理ができたとともに、より根拠に基づいた系統的な感染管理を学ぶことができました。6カ月間の長期に職場を離れることで、「感染管理」のことだけに集中することができ、また、自分の職場を客観的に見ることで現在の問題点がより明確になるなど、とても充実した期間を過ごすことができました。現在、この研修で学んだことをもとに、医療安全管理室で専任のICNとして業務を行っています。

当院での感染対策の取り組みは、感染対策委員会のもと、諮問機関であるICT及び看護部リンクナース会が実働を担っています。活動としては、定期的にグリッターバッグを用いた手洗い調査やマニュアルを遵守した感染対策がとられているか確認のための院内ラウンドの実施、ICT新聞の発行、月々の会議では、耐性菌（MRSA・MDRP・PRSPなど）の検出状況や医療器具（SSI・BSI・VAP）サーベイランス、針刺し損傷報告・抗菌薬使用量などの報告を行うとともに対策の検討を行っています。

そのようなチームとしての感染対策への取り組みとは別に、私が今年度取り組んでいることは、「感染管理の概念を実践へ」ということです。これまでのICT・リンクナース会の取り組みにより、マニュアルや物品の整備、感染症や針刺し事故が起こった場合の報告体制は整いました。しかし、院内ラウンドを行っているとき、マニュアルを遵守した対策が実施できていなかったり、感染対策物品の正しい活用が出来ていなかったりする場面が見受けられ、「体制を整えただけでは感染対策は実施できない」ということを痛感

いたしました。そこで、専任のICNという立場を有効に活用し、感染症発生報告時はすぐに現場に出向き、スタッフが正しく予防策を実施できているか、必要物品が確保できているか、出来てなければ確保をするなど、感染対策が確実に実施できるよう、その場で対応するようにしています。また、各部署のカンファレンスや勉強会に出向き、その時、その部署で必要な感染対策を、実演を交えながら、現場のスタッフが本当に実践できているかを確認します。そのほか個別に院内ラウンドを行い、実施できていない感染予防策や発生した感染症情報については広報誌を活用し「今、医師会病院の感染対策の現状はどうか」とスタッフが感染対策に興味をもってもらうようにしています。

現在、このような取り組みを始めたばかりで、実効性や費用対効果についても分析して行かなければなりません。これからも「患者を守る。自分（スタッフ）を守る。」という感染対策の基本を忘れずに取り組んでいきたいと考えておりますので、よろしくお願い致します。



ICT・リンクナースとともに作成した手洗い強化週間のポスター

お知らせ

ホームページのご紹介

当院のホームページは、医療情報企画室職員による手作りHPで、
医師の交代・お知らせ等随時更新しております。
下記URLにアクセスいただき、患者様のご紹介時等にお役立たせください。

<http://www.minc.ne.jp/kasiihp/>



【 基本理念 】

患者様の意思と権利を尊重し、会員や地域の医療ニーズに応え、
安全で質の高い誠実な医療を提供します。

【 基本方針 】

- 1) 医療を通じて地域社会への貢献
- 2) 救急医療の推進
- 3) 専門性を追求した高度医療の実践と連携の強化
- 4) 予防医学と医療人教育

新入職員（新任医師）紹介

呼吸器内科医長

<プロフィール>

(H 18. 8. 1～)
 名 前 ハマサキ マツロウ 濱崎 哲郎
 診 療 科 呼吸器内科
 出 身 県 鹿児島県
 出身大学 鹿児島大学
 (平成6年卒)
 前勤務先 川内市医師会立
 市民病院
 趣 味 旅行、食べること



平成18年8月より呼吸器内科が新設されました。
 何かとご迷惑をおかけすることが多いと思いますが、よろしくお祈いします。

小児科医長

<プロフィール>

(H 18.10. 1～)
 名 前 ヒツクシ カズコ 櫛作 和子
 診 療 科 小児科
 出 身 県 鹿児島県
 出身大学 鹿児島大学
 (平成2年卒)
 前勤務先 県立薩南病院
 趣 味 ダイビング



半年ぶりに又勤務させていただきます。
 よろしくお祈いします。

小児科医師

<プロフィール>

(H 18.10. 1～)
 名 前 フジヤマ 藤山 りか
 診 療 科 小児科
 出 身 県 鹿児島県
 出身大学 鹿児島大学
 (平成8年卒)
 前勤務先 霧島市立医師会
 医療センター
 趣 味 旅行



よろしくお祈いします。

外科医師

<プロフィール>

(H 18.10. 1～)
 名 前 モトタカ ヒロユキ 本高 浩徐
 診 療 科 外科
 出 身 県 鹿児島県
 出身大学 鹿児島大学
 (平成13年卒)
 前勤務先 鹿児島大学病院
 趣 味 旅行



二年ぶりにお世話になることになりました。
 よろしくお祈いします。

消化器内科医師

<プロフィール>

(H 18.10. 1～)
 名 前 タノフェ シロウ 田ノ上 史郎
 診 療 科 消化器内科
 出 身 県 鹿児島県
 出身大学 鹿児島大学
 (平成13年卒)
 前勤務先 鹿児島厚生連病院
 趣 味 子どもの相手



最近産まれた娘とやんちゃ息子と遊ぶのに仕事よりも(?)
 体力使ってます。もちろん仕事の方も皆様のお役に立てる
 よう精一杯がんばりますので、よろしくお祈いします。

外科医師

<プロフィール>

(H 18.10. 1～)
 名 前 ナガタ トシユキ 永田 俊行
 診 療 科 外科
 出 身 県 鹿児島県
 出身大学 鹿児島大学
 (平成14年卒)
 前勤務先 川内市医師会立
 市民病院
 趣 味 ダイビング



3年前に麻酔研修で半年間お世話になりましたが、今回
 は外科でお世話になります。前同様、各科の先生方には
 ご迷惑をおかけしますが、よろしくお祈いします。

呼吸器内科医師

<プロフィール>

(H 18. 8. 1 ~)

名 前 サダムラ 貞村 ゆかり

診 療 科 呼吸器内科

出 身 県 鹿児島県

出身大学 鹿児島大学
(平成 14 年卒)

前勤務先 鹿児島市立病院

趣 味 映画鑑賞



がんばりますので、よろしくお願ひします。

循環器内科医師

<プロフィール>

(H 18. 9. 1 ~)

名 前 ソノダ タケシ 園田 剛嗣

診 療 科 循環器内科

出 身 県 鹿児島県

出身大学 大分医科大学
(平成 16 年卒)

前勤務先 鹿児島大学病院

趣 味 映画鑑賞



全力でがんばります。よろしくお願ひします。

小児科医師

<プロフィール>

(H 18.10. 1 ~)

名 前 ヌルキ ユウイチロウ 塗木 雄一郎

診 療 科 小児科

出 身 県 鹿児島県

出身大学 鹿児島大学
(平成 16 年卒)

前勤務先 鹿児島大学病院

趣 味 登山



よろしくお願ひ致します。

鹿児島市医師会病院

連携室だより vol. 5

鹿児島市医師会病院 連携室だより No. 5

創刊日：平成 17 年 8 月 10 日

発行日：平成 18 年 12 月 10 日 (年 3 回 4・8・12 月発行)

発行者：〒 890 - 0064 鹿児島市鴨池新町 7 番 1 号

鹿児島市医師会病院 院長 山口 淳正

担 当：医療支援部 医療連携室

T E L：099 - 254 - 1125 (代表)

T E L：099 - 254 - 1121 (連携室直通)

F A X：099 - 254 - 1308 (連携室直通)

ホームページ：<http://www.minc.ne.jp/kasiihp/>

ご意見などございましたら、お気軽にご連絡ください。